

<水稻の栽培ポイント>

生育状況

普通植とちぎの星は8月中下旬、あさひの夢では8月下旬に出穂期を迎えました。普通植の生育の遅速は平年並と予想されます。成熟期を迎える10月上旬～中旬の天気は数日周期で変わりますが、平年に比べ気温が高い見込みで、降水量は平年並みと予想されます。刈り取り適期が数日早まる可能性が高いため、早めに刈り取り準備をし、適期収穫をしましょう。

1 刈り取り準備

- ・コンバインや乾燥機・調製機の清掃整備を行い、異種穀粒・異品種の混入が無いようにしましょう。

きちんと掃除したつもりでも、機械の中にはゴミが残留しています。

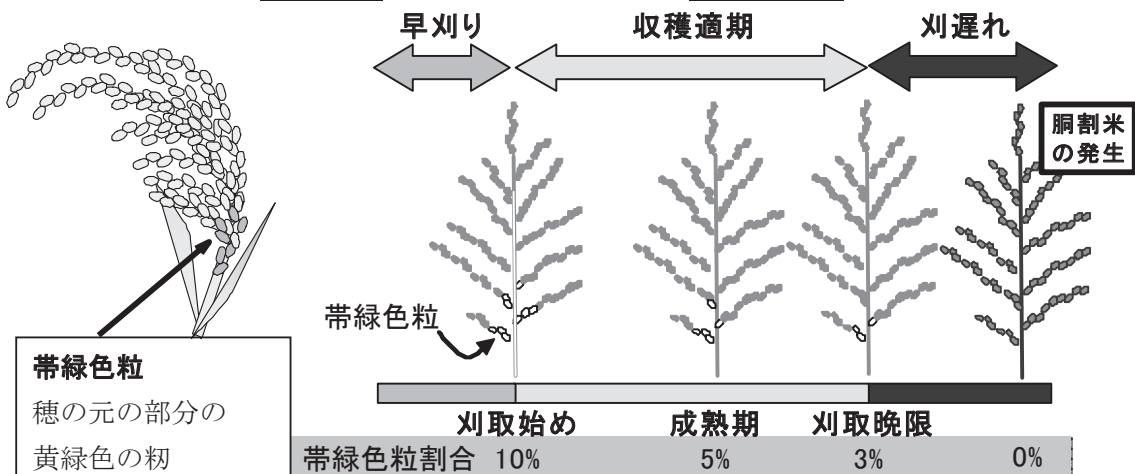
- ・圃場内の雑草は刈り取り前に抜き取り、雑草の種子が混入しないようにしましょう。ライスセンターでは雑草種子などの夾雑物の多いものについては荷受をお断りする場合があります。

2 適期収穫

収穫作業は、帯緑色粒率が10%になったら開始し、3%になるまでに終了しましょう。刈り遅れの無いよう注意してください。刈り遅れると胴割米の発生、色沢・品質・食味の低下を招きます。また、早刈りは青米が多くなり減収となりますので注意しましょう。

【刈り取り適期の判定方法】

- 平均的な生育をしている数ヶ所で5～6本の穂をまとめて握ってみます。
- 穂全体に占める帯緑色粒の割合で判定します。10～3%が刈り取り適期です。



3 新規需要米について

新規需要米についても、主食用米と同様に刈り取り準備、圃場内の雑草の抜き取りを行いましょう。

(裏面あり)



<麦類の栽培ポイント>

湿害対策等の基本技術を徹底し、高品質麦の生産に努めましょう。

1 湿害対策の徹底

- (1) 稲刈り後の弾丸暗渠による早期の排水性向上が有効です。プラソイラ等を活用した心土破砕も圃場の排水性を良くします。
- (2) 地表水の排水のための明渠を設置します。明渠は必ず圃場外の排水路とつなげてください。

2 土づくりと施肥

- (1) 地力増進のため、良質な堆肥を10a当たり1,000kg程度施用しましょう。
また、苦土炭カル、苦土重焼りん、OM-37等も施用しましょう。
- (2) 施肥では、肥効調節型肥料（JA 足利麦専用「麦の香」等）を使用しましょう。
小麦はタンパク質含有量が低い傾向にあります。基準施肥量（窒素成分10～11kg/10a）を参考に、令和元年産の成績に応じた施肥設計をしましょう。

3 適期播種・種子消毒

【播種期間の目安】 二条大麦：11月15日～25日 小麦：11月10日～20日
二条裸麦：10月30日～11月5日

生育を良好にし、高品質麦の安定生産を図るため、適期に播種しましょう。

また、大麦斑葉病や小麦なまぐさ黒穂病などの種子伝染性病害予防のため、種子消毒を必ず実施しましょう。（例：ベンレートT水和剤20、ペフラン液剤25）

4 雑草防除

播種後に除草剤の全面土壌処理を行います。

雑草の種類	除草剤名	使用時期
一年生雑草	ボクサー（乳剤）	播種後～麦2葉期まで 但し、小麦は麦4葉期まで （雑草発生前～雑草発生始期）
	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期まで （雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）
	リベレーターG(粒剤)	播種後～麦2葉期まで （雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）
	ムギレンジャー乳剤	播種後～出芽前（雑草発生前）
	クリアターン乳剤、	播種直後（雑草発生前）
一年生雑草（ツクサ、ヤツリガサ、キクアブラナ科を除く）	トレファノサイド乳剤 （小麦を除く麦類に適用）	播種後～出芽前または生育期（収穫45日前まで）雑草発生前に散布。

※ ボクサー・リベレーターフロアブル・G(粒剤)・ムギレンジャー乳剤は、抵抗性スズメノテッポウに効果を発揮します。

※ 除草剤（農薬）を使用する時は、ラベルの表示を確認して適作物・使用時期・施用薬量を守り正しく使用してください。